



# チャレンジ！一歩前へ

郡山市立大槻小学校  
学校だより No.61  
令和4年 2月 7日  
文責：校長 酒井 健

## ◇「新入生保護者説明会」が行われました。

2月3日(木)、来年度入学の保護者の皆様方に学校においていただき、「新入生保護者説明会」を開催しました。

本来ですと、学校の一日の様子や入学する前にお願いしたいことなどを説明させていただくのですが、今回は「まん延防止等重点措置」適用期間であること、感染者数が急激に拡大していることなどから、学校からの説明はせずに、物品販売のみといたしました。

来年度の新1年生は、現在のところ**97名**でのスタートとなる予定です。

来年度の全校生は**557名**、学級数は今年度より2学級増えて**25学級**となる見込みです。また、さらに大きくなりますね。



## ◇「みなし陽性、自宅療養期間、その解除の仕方・・・等感染症に関する決まりが日々変わってきてます」

毎日のニュース、新聞等でご存知のように、対応の仕方、在り方が目まぐるしく変わってきています。大槻小学校のHPにも「対応の変更について」をアップしておきましたが、保護者の皆様も一つ一つご確認をしていただき、感染症への対応をお願いいたします。

疑問点などがございましたら、いつでも学校へご連絡ください。



### 校長のひとりごと

### ある有名な数学者のお話です。

私は、子どもの頃から、ずっと算数・数学が得意だったわけではない。計算ミスは多いし、文章問題は読んでも意味がわからないし・・・。だから、むしろ数学は嫌いな教科であった。

そんな私の転機は中1の夏休み。友達と一緒に宿題をやっていたときのことだ。自分の計算が間違っていたのだが、その友達が「この部分がおかしいよ」と教えてくれた。それだけなら別にたいしたことはない誰にでもよくある光景だが、それまで何度も同じミスをしてきて「どうして間違えてしまうのだろう」と思いながらも、自分の計算ミスのくせに気付かず放置していた自分にとって、初めて、「あっ、こういうことだったのか」と分かった瞬間に出会えたのである。

霧が晴れるように、自分の視界が一気に明るくなり、本当に気持ちがよかった。この気持ちよさこそが数学の楽しさだと気付いたのは、ずいぶん後になってからだけど、「数学という教科とどうやって付き合っていけばよいか」のコツみたいなものは、はっきり分かったような気がした。

それまでは、特に宿題なんて、よく考えずに「とにかく終わっていれば怒られないから」という気持ちで雑にやっていた。でも、この時から、この問いでは、自分のどんな知識を試そうとしているのだろうか？どんな方法で解けば簡単にできるだろうか？なぜその方法で解けるのだろうか？と考えるようになった。つまり、分からないことを放置せずに、「あっ、こういうことか！」という発見の回数を増やすことにした。・・・(中略)・・・二年後の3年生の夏には数学が一番の得意教科となった。

この時の出来事は、「自分の人生を変えてしまうほどのきっかけ」であった。



“きっかけ”って大切ですね。算数が好きになる・リコーダーが得意になる・みんなの前で堂々と話すことができる・なわとびが上手になる……たくさんありますよね。学校でも、ご家庭でも子どもたちの、この“きっかけ”を大切にしていきたいですね。

私自身、たくさんの“きっかけ”があり、今の自分が在るんだと感じています！

